

美術部へようこそ! ●東京都中野区立第五中学校

特色ある活動を行っている美術部を取り上げ、その活動内容、部の魅力などについてご紹介するコーナーです。今回、登場するのは、地域と関わる活動が目を引き、東京都中野区立第五中学校美術部。2年前に取り組んだ、地域の児童館内リニューアルのための壁画制作の中心にお伝えします。

美術に親しみ、地域とつながる

東京都中野区にある児童館、「U18 プラザ上高田」。入り口を開けると目に飛び込んでくるのは、カラフルな花や森や動物たちが描かれた壁だ。階段、2階の乳幼児用ルームの中にまで広がる世界は、まるでおとぎの国のように。思わず近寄って見てしまうほどのみごとな壁画だ。

中心となって制作に当たったのは、中野区立第五中学校美術部。女子18名、男子1名の計19名から成り、顧問の花里裕子先生、神棒砂知子先生とともに、毎年、運動会の入門門制作や、地域の商店街アーケードを使った展覧会への出品といった活動を行っている。部の方針は、「絵を描くことを楽しみながら上達を旨とする」こと。

活動の拠点となる美術室は、美術部以外の生徒でも、何かを作りこむと立ち寄り場所となっている。美術に親しむ雰囲気、学校全体に感じられる。もう一つ、同校について興味深いのは、地域と深く結び付いた中学校であるということ。地域には、学校から届く学校通信を楽しみに読む人も多く聞く。

壁画制作の発端は、学校通信に載った美術の授業の作品。それを目にした当時の児童館館長が、改装の検討中だった2階の壁画制作を、同校美術部に依頼しようと思立った。

※「Nakano5th Clublog」
第五中学校のPTAや地域サポーターによるブログ。
日ごろの部活動の様子を知ることができる。
http://club.blogzine.jp/nakano5th_clublog/

当時、美術部員の多くに、自分の世界の中だけで楽しむという姿勢が見られた。「美術が好きの子たちの居場所となる部であればいい。でも、創作をするなら、ひとりよがりでない世界を意識してもらいたい。多くの人と関わる機会は、できるだけ捉えていきたいと思った」。そう語るのには、花里先生。校内での検討の結果、依頼を引き受けることに。

「みんなが見る」という気づき

2010年8月、美術部員に、地域の人たちや卒業生たちの力も加わり総勢170名によって、階段から2階の全壁面を彩る壁画が完成した。

花里先生は、壁画制作中のある出来事を振り返る。「小さな子どもの姿を目にしたとき、生徒から、『こんなに目線が低い子たちが使うんだ。もっと低いところにたくさん絵を描いてあげよう』という声が上がったんです。『みんなが見る絵』というものを、肌で感じた瞬間だったんだと思います」と。橋爪敦校長は、「自分たちの生活の場に、後に残る形で作品を展示できるというのは、生徒にとって大きな経験だったはず」と語る。生徒たちには、たしかに学ぶものがあったようだ。

「先生、またいつか壁画を描くときには、呼んでくださいね」と言って、卒業を控えた3年生は花里先生と笑い合った。



制作の中心となった3年生。壁画制作を経験し、「自分に自信がついて、『成長した』と思った」と語る。



左/商店街アーケードを使った展覧会「空中ギャラリー」に出品する作品の制作に取り組む。



右/壁画制作の様子。緊張し、なかなか描き出せなかった部員もいたという。

野外造形展は楽しい

造形おかげきっ子展

愛知県では、豊橋・豊田など多くの地区で野外造形展がさかんに行われています。岡崎市の「造形おかげきっ子展」もその一つ。平地や林、森の中など地形を生かした造形展に毎年たくさんの人々が訪れます。

起

伏のある緑多い広大な公園に並ぶ数々の作品。「野外造形展」という性質上、主に展示されるのは焼き物、金属や木などを材料とした作品となるが、これだけの立体作品が並ぶ光景は圧巻だ。

あちらこちらで、家族連れのほほえましいシーンも見かける。数ある中から自分の作品を見つけて走り寄る子ども、作品との記念写真を撮る保護者、「○○ちゃん、上手だね」と、何人かで作品を取り囲む子どもたち。

選抜された作品でなく、岡崎市内の全小中学校の全作品が展示されるのも、この造形展の大きな特徴だろう。

第1回の「造形おかげきっ子展」が開催されたのは1964年^{かご}で、同じ市内の籠田公園が会場だった。当初は予算も思うようにつかず、先生方が制作した絵皿などを販売して資金をつくったという逸話も残っている。今年も、第49回展が

10月下旬の週末に開催される。この規模の「野外造形展」を49回も継続させてきた原動力は、市内の図工・美術の先生方の美術教育への情熱と、一生懸命制作に取り組む子どもたちへの限りなく優しいまなざしであり、保護者たちの温かい理解があったからであろう。

第22回展以降、現在の「おかげき世界子ども美術博物館」へと会場を移し、今や多くの市民に秋の行事として親しまれている。

※「造形おかげきっ子展」ホームページ
<http://www.oklab.ed.jp/koten/>



広々とした会場に並ぶ作品。多くの家族連れが訪れる。(2011年10月)

放課後

第1回

ART